

---

---

## ホットニュース(平成11年度／第17号)

---

---

### ●今月の業界ホットニュース／～暑中御見舞い～

暑中・残暑御見舞い申し上げます。

たまたまNIRAからシンクタンク年間に記載する弊社の研究概要を記述するように依頼がありましたので、今月は暑中のご挨拶がてらその内容をお知らせします。

#### (研究概要)

国内や海外の発展途上国を対象として、都市・地域計画、交通・運輸・観光計画及び通信・情報・システム等に関する調査・計画・研究を行っている。国内では、21世紀の少子・高齢・成熟社会に向けて、情報化・活性化・福祉・防災等の総合的な課題に取り組み、新たな都市基盤の整備手法や、市民参加・PFI等も踏まえた新たな事業の推進方策などを追究している。また交通計画にも総合的に取り組み、交通需要管理(TDM)についても実践的研究を進めている。

#### (将来展望・研究体制)

人口減少・高齢化社会への移行と情報ネットワーク社会の進展の中での都市や都市空間マネジメントのあり方、及びこれに対する都市整備・都市整備手法・事業推進方策等の研究を継続的に進めていく。研究組織としては、個々の研究員が自立したプロフェッショナルの集合体として考えており、外部の関係機関との交流・連携も重視し、テーマに応じた最良の研究体制を組むことを心がけている

(代表取締役 堀田紘之)

---

---

### ●求められる中小企業の「群」としての支援・活性化策

---

---

経済不況や急激な産業構造変革の時代を反映し、我々の業務の中でも産業活性化、雇用の場の確保に関する課題が益々ウェイトを増している。先端産業・情報産業やベンチャーの育成が重要なのは言うまでもない。例えばバイオ産業育成の研究資金上積み(5ヶ年で2兆円)等国の先導をはじめ、情報通信・環境分野の官民共同の取組み等が進められている。一方では伝統産業・地場産業育成策も各地で手がけられ、「ものづくり」が見直される気運もある。首都圏工業団地には薄明がさしてきたと報じられる一方で、産業界本社機能の地方移転が進むなど、各方面から産業構造の再編が進められている。

しかしながら、我が国の経済成長を支えてきた中小企業の衰退についてもっと対策を図る必要があると思われる。中小企業の衰退は必ずしも経済的要因ばかりでなく、高齢化・後継ぎ問題も関係している。また、対銀行策が進む中で中小企業を支えてきた地銀の存続も危ぶまれている。中小企業は群としてみると我が国の基幹産業の一つと考えられる。ネットワークには独自のノウハウがあり、また、その技術は同一分野企業の「集積」による企業間競争により発展してきた。群としての中小企業の支援・活性化策が求められているのではないだろうか。

(第一計画室長 坂井雅子)

---

---

### ●アジア都市開発戦略東京会議1999

---

---

先月28日(水)と29日(木)の2日間「アジア都市開発戦略東京会議1999」が世界銀行、建設省及び国際協力事業団(JICA)の共催で約250人が参加して開催された。

「アジアにおける都市化、地方分権化と国際化の中での戦略的都市開発の方向性」をテーマとし、アジア7カ国・14都市と横浜市、北九州市の市長(一部代理)、援助機関(世銀、JICA、OECD、アジア開発銀行、国連人間居住センター等)、建設省、学識経験者、コンサルタントが発表・議論を行った。

世界銀行が、より整合的で実効性の高い支援を行うために世界で実施している「都市開発戦略及び都市支援プログラム(略称:CDS)」で、アルメックは岩田鎮夫代表取締役が中心とな

って南アジア（バングラデシュ）と東アジア（インドネシア、タイ、中国、フィリピン、ヴェトナムの5カ国）において世界銀行と契約のもと業務を行っている。今回の東京会議はこの中間報告の場でもあった。

CDSは、持続的に発展可能な都市づくりのために国と地方自治体が取り組むべき目標として1.Livability（快適に住めること）、2.Competitiveness（競争的であること）、3.Good Governance & Management（良く統治・管理されていること）、4.Bankability（財務的に健全であること）の4つを軸としており、各都市における都市開発ビジョンと優先事業に関するコンセンサスづくりの支援、雇用創出及び都市の経済成長見通し評価、財務・投資戦略の立案、都市開発戦略づくり推進過程における教訓と知識の共有といった活動を行っている。今まで日本が行ってきたODAとちがい、あくまで主体は各都市にあり、都市開発戦略を各都市が立案するためのサポートを関係者との議論と合意形成の過程を通じて行うものである。

東京会議では参加者の活発な議論が行われ、現実の問題と課題を承認のもと今後の努力と協力を誓う宣言をした。この協力には途上国間だけでなく援助機関相互の協力も含まれ、21世紀の国際協力の新たな方向性が視えた。

（総務部長 石本潤）

=====

●まちづくりの考え方～プランナーの会に参加して～

=====

先日「ふらふらプランナーズの会」なる集まりに参加してきた。この会は都市計画やまちづくり関係者を中心に、定期的集まってお互いの近況報告やこれからの都市やまちについて語り合う会である（おいしいお酒は必需品）。

今回は新人発掘も目的としているとの話を聞き、喜んで参加したのだが、実際は新人らしき人物は見あたらず、恐縮してしまった。しかし自己紹介を兼ねた歓談の中で、次第に打ち解けることが出来た。

なかでも、自分の住む町で、自らまちづくりNPOを組織した方や、住民の一人としてまちづくり活動に参加している方のお話は非常に興味深かった。身近な町で活動することは、「まちに愛着を持つ」という点において理想的である。

私も「まちづくりコーディネーター」なるものを目指しているため（目下修行中）、このような会で多くの先輩方に出会い、お話を伺えたことは、非常に有意義であった。今後も積極的にこのような場に参加していきたい。

（第一計画室 阿部朋子）

アルメックホットニュース（平成11年8月15日発行）

////////////////////////////////////